

## 血液型と弁理士



若原 誠 一（南甲弁理士クラブ）

古い話になりますが、私が昭和59年に弁理士試験に合格したとき、同年度の新人研修において昭和59年度弁理士試験合格者及び昭和59年度の新人研修参加者の名簿を作成しました。このとき、冗談半分で、新人研修参加者の「血液型」を集計してみました。昭和59年度弁理士試験合格者は「88名」ですが、新人研修を受けていた人数はこれより少なく、名簿のサンプル数は70名弱です。

ところで、日本在住人全体の血液型分布は、大体以下の通りです。A型：O型：B型：AB型 = 4：3：2：1。さて、昭和59年度の上記名簿の血液型分布ですが、このとき面白い傾向があることに気が付きました。大まかにいうと以下の傾向となりました。A型：O型：B型：AB型 = 2.5：2.5：3.5：1.5。

「弁理士にはA型が少なくB型が多い」

ここで特徴的なのは、日本全体ではB型は2割しかいないのに、昭和59年度新人研修参加者には、3割以上もいたことです。逆に、日本全体ではA型は4割もいるはずなのに、昭和59年度新人研修参加者には、3割以下しかいなかったことです。この新人研修に参加した弁理士では、圧倒的にA型からB型への偏りがみられるということです。なお、この新人研修に参加した弁理士では、日本全体に対してAB型の弁理士は若干多くなる傾向があり、日本全体に対してO型の弁理士は若干少くなる傾向がありました。

しかし、統計学（確率論）からすると、弁理士4千数百人の中のうち、弁理士70名弱のサンプル数では、この程度の偏りが起きる確率はかなり高く、弁理士全体にわたって貫かれる傾向とは必ずしもいえません。もう少しサンプルを集めてみたいところではあります。とはいっても、その後、弁理士同士で

飲む機会に、余談で血液型の話ができると、なぜかA型比率が低くB型比率が高いことに驚きます。

また、私が弁理士になって開業する前の9年間に勤務した特許事務所は2カ所（東京）あります。最初に勤務していた特許事務所は男女9人の事務所でしたが、A型1人、O型4人、B型4人、AB型0人でした。次に勤務していた特許事務所は男女13人の事務所でしたが、A型1人、O型6人、B型4人、AB型2人でした。このうちのA型はいずれも事務担当の女性で、特許明細書書きや商標実務担当者にはA型はいませんでした。このことから、弁理士や十数人～数人規模の特許事務所つまり小組織では、A型の比率が低くB型の比率が高い傾向にあるともいえるかもしれません。

「士族や小組織でもA型比率が低くB型比率が高くなる」

他の士族、例えば、弁護士、税理士にも、酒の席で血液型を聞いてみたことがあります。サンプル数は少ないのですが、A型の比率が低くB型の比率が高いことに気が付きました。どうも弁理士だけでなく士族全体としてもA型の比率が低くB型の比率が高いようです。

また、私は中小企業家団体の役員もしているので、中小企業の社長と飲む機会も多く、このときにも血液型を聞いてみたことがあります。やはりサンプル数は少ないのですが、A型の比率が低くB型の比率が高いことに気が付きました。どうも士族や小組織ではA型の比率が低くB型の比率が高くなる傾向にあるようです。あるいは、「新しく開業する起業家」には、A型の比率が低くB型の傾向が比較的高いと言いつてもよいのかもしれませんが。

なお、AB型も、士族や小組織では若干比率が高

いようですが、B型ほど顕著ではないようです。

#### 「大組織ではA型比率が高くなる」

では、弁理士の中で比率が低いとみられる、血液型A型の弁理士さんの何人かと話をしてみると、ある傾向にあることに気が付きました。名古屋のあるA型の弁理士さん数人と話をしてみると、この弁理士さんの事務所は数人の規模です。しかし、事務所を開業する前の勤め先は、全て大手企業の知的財産部でした。また昭和59年度の上記名簿からみると、A型の弁理士の勤務先は、大手企業知的財産部（特許部）や大手特許事務所であるという傾向が見られました。

したがって、大組織ではA型比率が高くなる傾向があるようで、A型の弁理士さんは、以前は大企業に所属していたなど、大組織と何らかの関連性がある人が多いようでもあります。

また、公務員にはA型が多いという話を聞いたことがあります。これは「連携型の仕事が多い大組織」にはA型が向くといわれていることと関連性があるのかもしれませんが。したがって、公務員である特許庁の審査官・審判官にはA型が多いと推測されます。しかし、特許庁の審査官・審判官には、個々人独立して行う独立型の仕事が多く、連携型の仕事が少ないと言われており、他の官庁に比べて、B型傾向が高いのだという話を聞いたこともあります。

また、私の周りの特許庁出身の弁理士さんにA型が多いとも必ずしもいえません。どうも定年まで勤めて弁理士になった方にはA型が多く、定年よりずっと前に特許庁を辞して弁理士になった方には、B型が多いようにも思われます。

なお、O型は、大組織でも小組織でも片寄らず、大体において3割前後の比率を保っているようです。

#### 「歴史上の人物の血液型」

話は大きく変わりますが、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の血液型は何であったのか議論があるようです。現在明確なのは、血判が押された現存する古文書から、豊臣秀吉の血液型は「O型」であったそ

うです。織田信長の血液型は不明ですが、「B型」という推測は、その行状傾向から何となく納得がいきます。織田信長と行状傾向が似ていたといわれる、あの仙台藩の伊達政宗も、現存するミイラから「B型」であることが明らかだそうです。なお、偉人をミイラにするのは、奥州藤原氏に見られるように奥州の風習であったようです。

徳川家康は「A型」ともいわれますが不明です。でも「A型」であれば、「B O A」とバランスよくバトンタッチされて近世日本を建設したことになりますから、おさまりは良いように思われます。

以上の話は「組織のトップ」の血液型の話ですから、このトップが率いていた集団の血液型傾向は、トップの血液型と一致するとはいえません。この集団は、大組織でしたから、やはりA型が多かったのではないのでしょうか。

#### 「血液型の医学的根拠」

以上の私の話は、私の周りだけで集めた事実に基づく話ですから、科学的に普遍性及び一般性があるというためには、もう少しサンプルを集めてみたいところではあります。また、以上の話は「統計的な傾向」ですから、70才以上の弁理士の群とか、親の後を継いだ弁理士の群とか、条件によっては、AB型が多いとか、B型が必ずしも多くないとかいった傾向が出てくるかもしれません。

また、血液型と性格または行動パターンとの間には、今のところ医学的根拠がないと言われていきます。血液型を決定する遺伝子と脳構造を決定する遺伝子との相関性が科学的に明らかにされれば別の話ですが。

私が海外の特許事務所に滞在していたとき、アメリカやドイツの弁理士と血液型の話をしたことがありますが、自分の血液型も知らない弁理士もいて、あまり話題になりませんでした。血液型の話が好きなのは日本国だけにかぎられるようです。

医学的根拠及び科学的根拠がないといえ、血液型の話が好きなのは日本の風土なのかもしれません。